

観光地づくりに向けた魅力度評価手法に関する調査

1 調査の目的

日本の観光地が真に魅力的で競争力のあるものになるためには、自らの観光地の魅力を客観的評価基準により、的確に捉えることが肝要である。そのため、本調査は、観光地の種類、旅行者の属性、旅行形態別に観光地の魅力度を定量的・客観的に評価するモデルの作成を目的として実施したものである。

2 調査内容

2.1 観光地、旅行者(評価者)、旅行形態の分類

2.1.1 観光地の分類

観光地の規模の大小に大きく依存せず、また、観光地の性格を反映した評価が可能となるよう、全国の主要な観光地58カ所を、以下の5つの種類に分類した。

- 自然観光地
- 温泉観光地
- 都市観光地
- 歴史観光地
- スポーツ・レクリエーション観光地

2.1.2 旅行者(魅力度評価者)属性の分類

評価者の視点を明確にするため、本調査では評価者の属性を男子学生、20～39歳男性、40歳以上男性、女性の4つに分類した。

2.1.3 旅行形態の分類

旅行形態によっても魅力度の評価が異なることが考えられるため、本調査では旅行形態として、家族旅行と団体旅行の2つに分類した。

2.2 評価項目の選定

観光地の魅力度算出に用いる評価項目は、観光地の性格を考慮できるように観光地の種類ごとに選定するとともに、4つの大項目と12の小項目からなる階層構造とした(かっこ内が小項目)。

- 自然・文化財資源(資源の重要さ、資源の種類の豊富さ、資源の多さ)
- 活動プログラム(種類の豊富さ、オリジナリティー)

- 宿泊施設(サービスの良さ、選択肢の豊富さ、評判の高さ)
- 居心地の良さ(環境の良さ、清潔さ、過ごしやすさ、散策の楽しさ)

2.3 重みづけ手法による魅力度評価

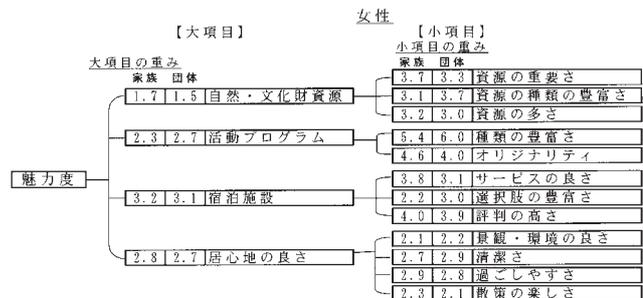
観光地の総合魅力度評価を行うためには、以下の要件を満たす必要があることから、本調査では重みづけ手法を採用することとした。

観光地の魅力を構成する要素(評価項目)を網羅的に評価できること

評価者および有識者の価値規範を評価に反映できること
評価過程での透明性を確保し、客観的かつ適正に評価できること

3 調査結果

下の樹形図は、女性の視点を小項目に反映した温泉観光地の重みづけ結果を示したものである。



本調査では、上記樹形図を含めて、観光地の種類別、旅行者の属性別、旅行形態別の併せて40の樹形図を作成した。

4 今後の課題

本調査で今後の課題として整理された事項は以下の通りであり、引き続いての調査・検討が望まれる。

- 評価対象の明確化(観光地域の範囲など)について
- 評価項目の設定について
- 評価基準について
- 最新データによる継続的な評価について

(要約：調査室調査役 藤田哲男)